

戸田市行財政改革大綱(第8次行政改革)

目次

● 1 策定の背景	2	● 3 重点戦略	8
● (1)これまでの取組	2	● (1)重点戦略1	8
● (2)策定趣旨	3	● (2)重点戦略2	15
● (3)現状と課題	4	● (3)重点戦略3	20
● 2 行財政改革の基本的な考え方	6	● (4)横断的な姿勢	25
● (1)基本方針	6	● 4 おわりに	30
● (2)計画期間	7		
● (3)推進体制	7		

1 策定の背景

(1) これまでの取組

本市では、これまで7回にわたり、効果的で効率的な行政運営を目指して改革を進めてきました。

令和3年度からは、戸田市行財政改革大綱(第7次行政改革)において、3つの重点戦略(持続可能な行財政運営の推進・デジタル化による利便性の高い市民サービスの実現・多様な主体と連携した未来共創のまちづくり)を掲げ、令和6年度までの期間において、全庁で317件の行財政改革の取組を行い、費用や業務時間の削減の成果を上げました。

一方で、実施事業数やそれに係る予算は増加を続ける中、事業のスクラップ&ビルド()の効率的な実施を行うことができなかったことや、効率化のためのデジタル技術の活用の余地がまだ残されていることなど、課題も残りました。

()不要な事業を廃止(スクラップ)し、新しい事業を構築(ビルド)する行政改革手法。新しい事業の規模が不明確な中、廃止を検討する必要がある。

行財政改革の変遷

昭和57年度(1982年)～

- ・「戸田市行政改革基本方針」(S57)

昭和61年度(1986年)～

- ・「戸田市行政改革大綱」(S61)
- ・「第2次戸田市行政改革大綱」(H8)
- ・「戸田市新行政改革大綱(第3次行政改革)」(H13)

平成18年度(2006年)～

- ・「戸田市経営改革プラン(第4次行政改革)」(H18)
- ・「戸田市行政改革プラン(第5次行政改革)」(H23)
- ・「戸田市行財政改革プラン(第6次行政改革)」(H28)

令和3年度(2021年)～

- ・「戸田市行財政改革大綱(第7次行政改革)」(R3)

(2) 策定趣旨

30年以上人口が増え続けてきた本市でも、令和5年には初めて自然減(出生数が死亡数を下回ること)となるなど、これまでにない変化が起きています。また、世の中の変化が速くなり、先を見通すことが難しい時代になっていますが、複雑化する地域の課題に素早く柔軟に対応することが求められています。

このような状況の中、戸田市第5次総合振興計画に掲げる将来都市像「『このまちで良かった』みんな輝く未来共創のまち とだ」の実現に向けて、引き続き様々な取組を進めていく必要があります。

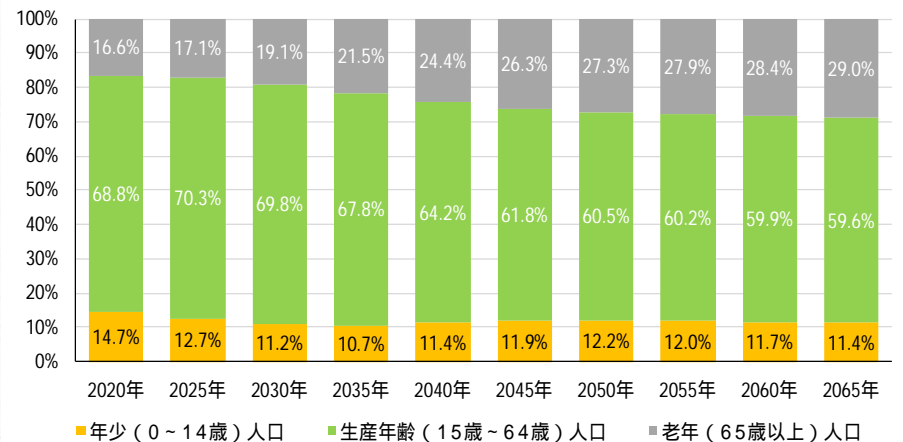
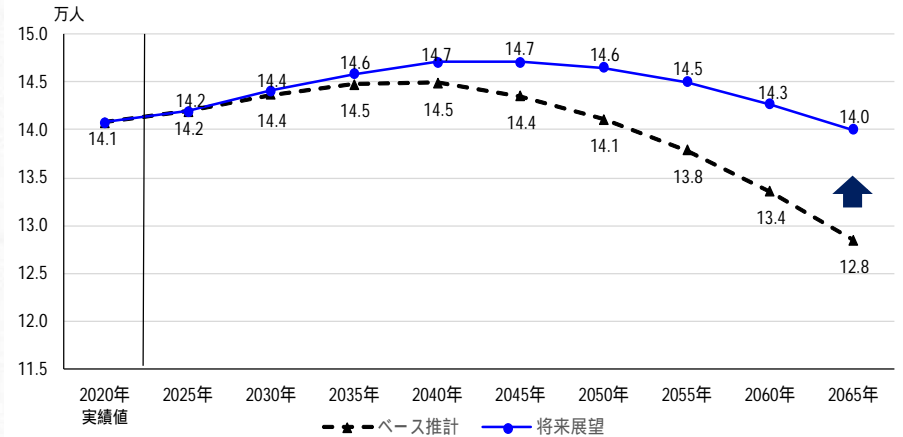
将来にわたって安定した行政サービスを提供し続けるためには、人口減少を見据えつつ、限りある資源(人・物・お金)をさらに効果的に活用するなど、時代に合った行財政改革を続けていく必要があります。そこで、戸田市行財政改革大綱(第8次行政改革)を策定しました。

(3) 現状と課題

① 人口動向

後期基本計画では、これまでの人口の変化と出生率の状況などを考慮し、今後の人口を2つのパターンで予測しました。1つは現状のままで推移した場合の「ベース推計」、もう1つは様々な施策を展開することによる効果を見込んだ「将来展望」です。

人口減少、特に働き手となる世代(生産年齢人口)の減少は、様々な影響をもたらすものであり、行政の働き手の減少も例外ではありません。本市でも、これからの人口減少社会を見据えて、行政の仕事の最適化を今から着実に進めていく必要があります。



②財政面

財政面では、人件費や福祉にかかる費用(扶助費)などの必ず支出しなければならない経費が増加傾向にあります。道路や橋などの継続的な維持管理や、多額の費用がかかる公共施設の更新など、課題は山積しています。財政状況が厳しくなる中で、これまで以上に適切で持続可能な財政運営に努めていく必要があります。

③市民生活の変化

デジタル化の進展により、インターネットやスマートフォンは私たちの生活に欠かせないものとなっています。行政手続のオンライン化など、効率化や行政サービスの充実が期待され、市民の皆さまが求める行政サービスも変化しています。また、生活スタイルや働き方など、一人ひとりの価値観も大きく変わってきています。

このように複雑化する行政の課題や市民の皆さまのニーズに対して、限られた資源で素早く対応し、質の高い持続可能な行政サービスを提供していくためには、市役所全体の効率性と効果を高める必要があります。そのためには、全庁で共通する課題の解決など、これまで以上に実効性のある行財政改革に取り組んでいく必要があります。

2 行財政改革の基本的な考え方

(1) 基本方針

この大綱では、社会経済環境の変化や課題を踏まえて「重点戦略」と「横断的な姿勢」を設定します。

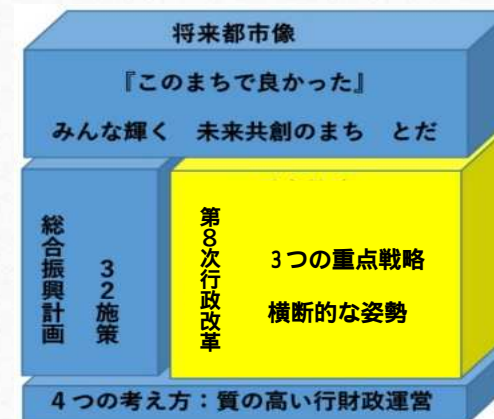
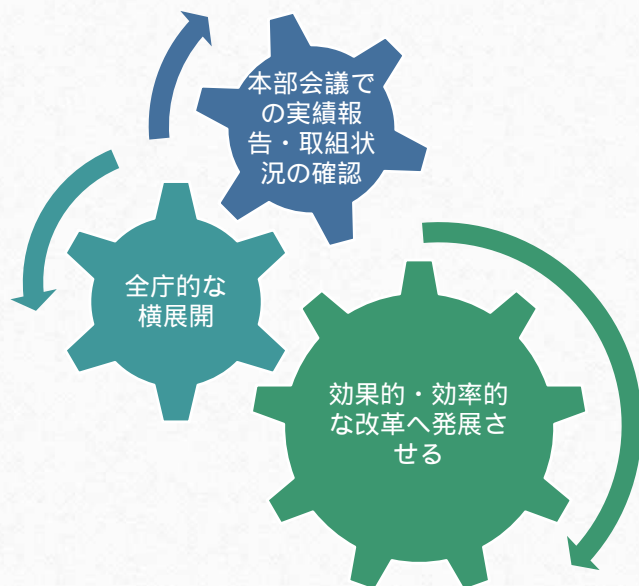
戸田市第5次総合振興計画で掲げる将来の姿「『このまちで良かった』みんな輝く 未来共創のまち とだ」の実現を支える柱として、限られた資源をより一層効果的かつ効率的に活用していきます。

また、「新しいことを始める一方で、見直すべきことは見直す」という視点での事業の見直し、デジタル化による窓口サービスのさらなる利便性向上など、これまで以上に職員一人ひとりが変化を楽しみ、自ら考え、自ら動く姿勢で、時代に合った行財政改革を進めていきます。

重点戦略1	重点戦略2	重点戦略3
未来を見据えた 持続性の確保	DXの浸透と定着化による 行政サービスの向上	多様な主体の活躍による 未来共創のまちづくり
横断的な姿勢		
「自分ごと」として、変化を楽しみ主体的に行動できる風土の醸成、環境づくり		

(2) 計画期間

令和8年度(2026年度)から令和12年度(2030年度)まで
社会経済環境の変化等により、計画期間を見直す場合があります。



(3) 推進体制

市長を本部長とする行政改革推進本部会議において、毎年度、取組状況の確認や実績の報告などを行います。

また、各部局は行財政改革の取組を横展開することで、効果的・効率的な改革へと発展させていきます。

3 重点戦略

(1)重点戦略1

～未来を見据えた持続性の確保～

今後、厳しさを増す財政状況や働き手不足の中においても、行政として「持続性の確保」が必要となります。

そこで、重点戦略1には、未来を見据えた「事業の新陳代謝と最適化」「持続可能な財政運営」「公共施設ファシリティマネジメントの推進」を掲げ、限りある資源を必要なものに配分するマインドを徹底し、最適な予算編成と事業実行につなげていきます。

常に問い直す風土

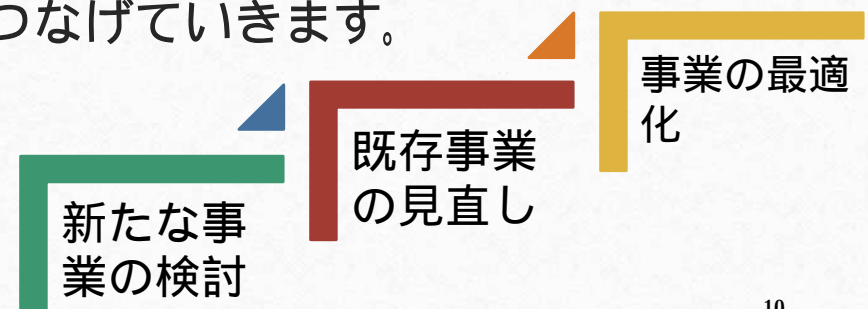
既存の事業に固執せず、市民ニーズと時代の変化に応じて柔軟に見直し、最適化を図る。

「市職員が心に留めておくべき理念をテーマごとに、表した「一言理念」」

事業の新陳代謝と最適化

今後も予期せぬ支出や業務の増加、新たな行政ニーズが高まっていくことが予想されます。そのため、従来のスクラップ&ビルドではなく、新しい事業を始めるに当たっては、その財源を生み出すために優先順位の低い事業を廃止する「ビルド&スクラップ」の観点が重要になります。特に、事業のスクラップに関しては過去の経緯に捉われないよう、また、心理的な抵抗を払拭するよう、覚悟をもって取り組んでいく必要があります。

意義が薄くなった継続事業の見直しの徹底や、優先順位をつけた事業展開など、予算編成と行財政改革を密接に関連させた事業の見直しを行います。これにより、事業の最適化と時代に合った新しい事業の創出につなげていきます。



先を見据えた経営

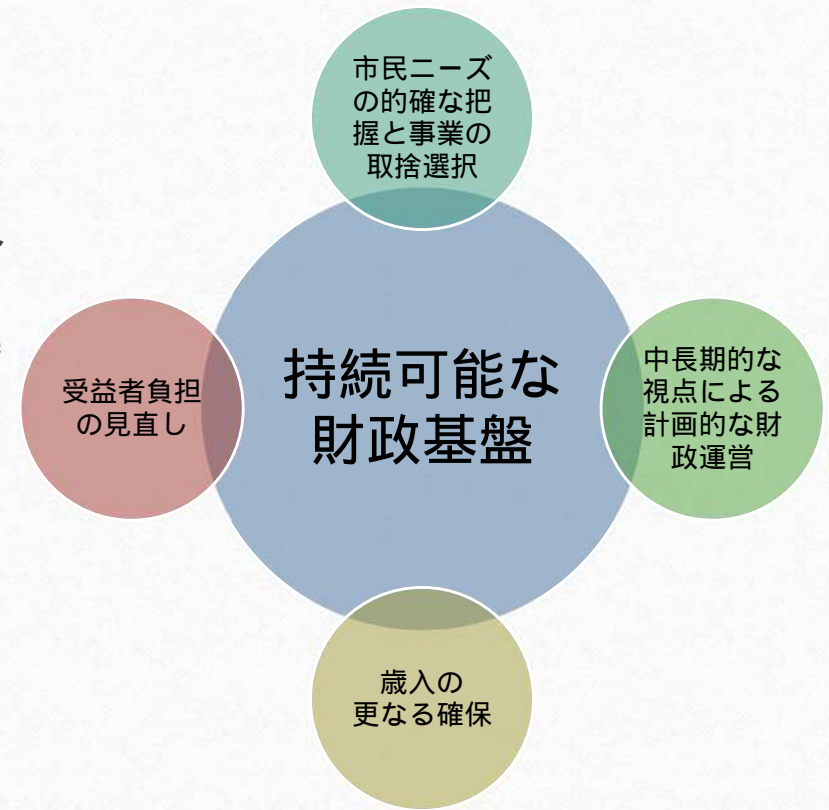
短期的な利益だけでなく、長期的な視点で財政の健全性を維持し、未来の世代にも配慮した責任ある運営を心がける。

「市職員が心に留めておくべき理念をテーマごとに、表した「一言理念」」

持続可能な財政運営

将来にわたって安定的な行政サービスを提供するためには、持続可能な財政基盤の確立が不可欠です。そのために、市民ニーズの的確な把握と取捨選択、中長期的な視点に立った計画的な財政運営を行います。

同時に、収入の更なる確保や受益者負担の適正化などにも積極的に取り組み、財政の健全化を一層推進します。





賢く使い、長く活かす

施設の複合化や長寿命化を通じて、効率的な運用と維持管理を実現し、市民サービスの質を保つ。

「市職員が心に留めておくべき理念をテーマごとに、表した「一言理念」」

公共施設ファシリティマネジメントの推進

公共施設の老朽化が進み、将来的な人口減少により財政運営がさらに厳しくなることが予想されています。そのため、今ある施設すべてを今までどおりに維持していくことは極めて困難な状況になっていきます。

この課題を解決するために、「戸田市公共施設等総合管理計画」に基づき、長期的な視点をもって公共施設等全体の更新、複合化、長寿命化等を分野横断で計画的に行います。これにより、財政負担の軽減や平準化、公共施設等の最適配置の実現を目指し、持続可能な行財政運営につなげていきます。

なお、個別施設の具体的な取組や実施時期などは「公共施設マネジメントアクションプラン」に基づき適切に進行管理を行っていきます。

(2)重点戦略2

～DXの浸透と定着化による行政サービスの向上～

デジタル化により日常生活は日々便利になる中、行政においてもデジタル技術を活用し、さらなる業務効率化と働き方改革、行政サービスの利便性向上が求められており、限りある資源を有効に活用するためには、DXは必要不可欠です。

そこで、重点戦略2には、「DXによる業務の負荷軽減と効率化」と「デジタル化による市民サービスの利便性向上」を掲げます。DXの浸透と定着化により、市役所の「ムリ・ムダ・ムラ」をなくすとともに、行政サービスの利便性向上につなげていきます。



デジタルで仕事を楽に

デジタル技術を積極的に活用し、業務プロセスを見直すことで、効率化と働き方改革を同時に実現する。


「市職員が心に留めておくべき理念をテーマごとに、表した「一言理念」」

DXによる業務の負荷軽減と効率化

デジタル技術を活用して、これまで手作業で行っていた業務を自動化したり、データを効果的に活用したりすることで、業務の負荷を軽減し、効率化を図ります。

例えば、AI(人工知能)やRPA(ロボットによる業務自動化)の導入、データの利活用などを進めることで、職員の業務負担を減らし、より創造的な業務に時間を使えるようにします。

また、テレワークやペーパーレス化など、デジタル技術を活用した新しい働き方も推進します。これにより、職員の働き方改革を進め、ワーク・ライフ・バランスの向上にもつなげていきます。



市民視点のデジタル化

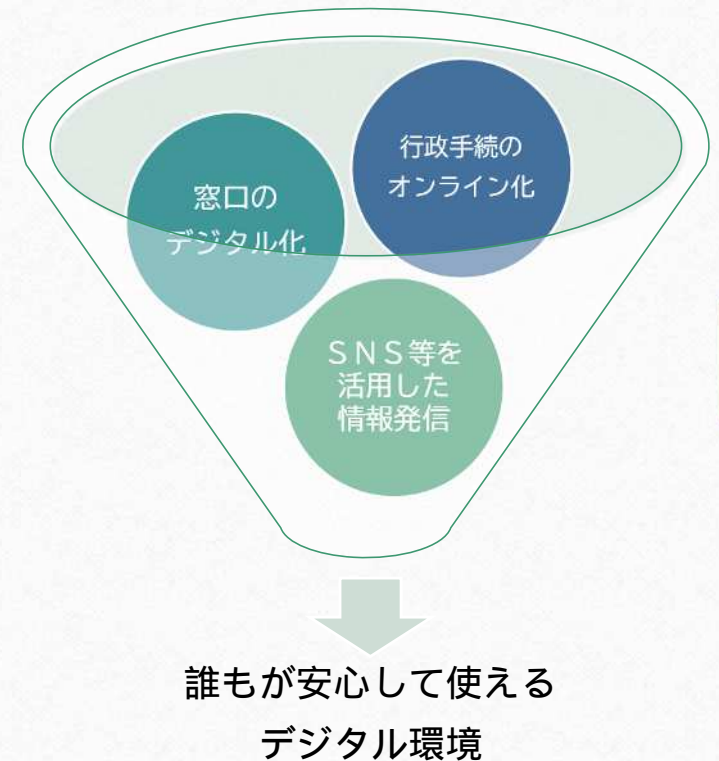
デジタル化は手段であり、市民の利便性を第一に考え、誰もが使いやすいサービスを設計・提供する。

「市職員が心に留めておくべき理念をテーマごとに、表した「一言理念」」

デジタル化による市民サービスの利便性向上

行政手続のオンライン化やキャッシュレス決済の導入など、デジタル技術を活用して市民サービスの利便性を高めます。市役所に来なくても手続ができる、待ち時間が短くなる、24時間いつでもサービスが利用できるなど、市民の皆さまにとって使いやすく、便利な行政サービスの実現を目指します。

また、デジタル機器の操作に不慣れな方々へのサポートも充実させ、誰もが等しくデジタル化の恩恵を受けられるよう配慮していきます。



(3)重点戦略3

～多様な主体の活躍による未来共創のまちづくり～

将来都市像の「未来共創のまち」を実現するには、多様な主体の活躍が欠かせません。行財政改革の視点からも、様々な主体が持つノウハウや資源を生かし、力を合わせ、的確な役割分担のもとに取り組むことが重要です。

そこで、重点戦略3には、「公民連携による多様な事業展開」と「民間活力等の活用」を掲げ、未来共創のまちづくりにつなげていきます。



対話から生まれる共創

民間企業や市民との対話を大切にし、それぞれの強みを活かした新しい価値創造を目指す。

「市職員が心に留めておくべき理念をテーマごとに、表した「一言理念」」

公民連携による多様な事業展開

公民連携窓口「公民連携ファーム」をバージョンアップし、ラボラトリースペース「とだラボ」を設置し、各企業との包括連携協定や公民連携提案事業の実施など連携事業が増加しています。

連携事業の拡充とともに、市民や提案者などが公共データを活用できる環境づくりを進め、公民連携による地域課題の解決を目指します。



外を知り、内を変える

民間のノウハウや技術を積極的に取り入れ、行政サービスの質の向上と効率化を図る。

「市職員が心に留めておくべき理念をテーマごとに、表した「一言理念」」

民間活力等の活用

本市は、指定管理者制度をはじめ、サウンディング型市場調査や成果連動型民間委託契約方式(PFS)などの新たな手法による民間活力の活用を行ってきました。今後も行政サービスの更なる質の向上を図るため、公共施設等の維持管理や運営において、民間事業者の経営ノウハウや技術を積極的に活用していきます。

また、行政を補完・代替する外郭団体と連携を密に図りながら、公共的なサービスの向上などを目指し、「戸田市外郭団体の活性化等に関する方針」に基づいて、活性化等に関する取組を推進していきます。

(4)横断的な姿勢

～「自分ごと」として、変化を楽しみ主体的に行動できる風土の醸成、環境づくり～

予測が難しい時代でも、組織が一丸となって課題に対応していくためには、組織として目指す方向性を示し、その実現を目指すだけでなく、ワークライフバランスを向上させながらも職員が高い意識をもって、学び、能力を発揮できる環境づくりが重要です。

そこで、職員一人ひとりが「自分ごと」として、変化を楽しみ主体的に行動できるよう「行政のプロフェッショナルとしてのスキルセット」と「挑戦する風土改革と職員の意識醸成」を横断的な姿勢として掲げ、行財政改革に取り組んでいきます。

学びを止めない姿勢

社会の変化に対応するため、常に新しい知識やスキルを習得し、自己研鑽に努める。

「市職員が心に留めておくべき理念をテーマごとに、表した「一言理念」」

行政のプロフェッショナルとしてのスキルセット

前例にとらわれないバックキャストによる政策立案や即断即決が必要な事案への対応など、職員に求められるスキルやレベルは高まっています。多様化・複雑化する行政ニーズへ対応できるよう、情報収集力の強化と専門的な知識や技術を持った職員の育成を進めていきます。



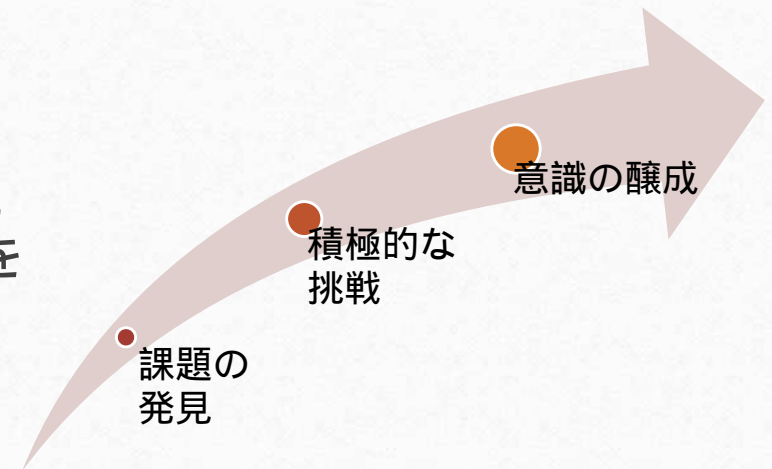
失敗を恐れず前へ

新しいアイデアや取組を歓迎し、失敗を
学びの機会と捉え、組織全体で成長する
文化を育む。

「市職員が心に留めておくべき理念をテーマごとに、表した「一言理念」」

挑戦する風土改革と職員の意識醸成

急速な技術革新や業務環境の変化に柔軟に対応し、組織全体を俯瞰する広い視野を持ちながら、課題を自ら発見でき、デジタル技術を活用して迅速かつ主体的に行動することが必要です。既存の枠組みに捉われず新しいことに積極的に挑戦できる風土改革とともに、職員のデジタルリテラシー向上や意識醸成を進めていきます。



4 おわりに

本市は、これまでの人口増加基調から転換期を迎えました。

人・物・お金の逡減について考えなければならない状況を、より豊かな市民生活を創出するため何が必要か、限られた資源の更なる有効活用の観点から考える契機として捉え、市民の皆様が真の豊かさを感じられるまちづくりを目指した行財政改革に取り組みます。

行財政改革の推進には、職員一人ひとりの意識と行動が重要です。全ての職員が、この大綱の理念を共有し、自ら主体的に考え、挑戦を楽しみ、生き生きと働ける組織風土を醸成することで、豊かな未来を創造する行政を実現してまいります。

- ・常に問い直す風土
- ・先を見据えた経営
- ・賢く使い、長く活かす
- ・デジタルで仕事を楽に
- ・市民視点のデジタル化
- ・対話から生まれる共創
- ・外を知り、内を変える
- ・学びを止めない姿勢
- ・失敗を恐れず前へ



戸田市行財政改革大綱(第8次行政改革)

令和8年3月発行

【発行】戸田市

〒335-8588埼玉県戸田市上戸田1-18-1

【TEL】048-441-1800

【URL】<https://www.city.toda.saitama.jp/>

【編集】戸田市 企画財政部 共創企画課



(*1)本大綱は、印刷を前提としない16:9のスクリーンサイズで作成し、
フォントは、誰にとっても見やすくなるようユニバーサルデザインを採用しています。